

天上の礼拝

シリーズ～終末を生きる～

2018/6/3

ヨハネの黙示録4章

その後、わたしが見ていると、見よ、開かれた門が天にあった。そして、ラツパが響くようにわたしに語りかけるのが聞こえた、あの最初の声があった。「ここへ上って来い。この後必ず起こることをあなたに示そう。」わたしは、たちまち“霊”に満たされた。すると、見よ、天に玉座が設けられていて、その玉座の上に座っている方がおられた。その方は、碧玉や赤めのうのようであり、玉座の周りにはエメラルドのような虹が輝いていた。また、玉座の周りに二十四の座があって、それらの座の上には白い衣を着て、頭に金の冠をかぶった二十四人の長老が座っていた。

ヨハネの黙示録4章

玉座からは、稲妻、さまざまな音、雷が起こった。また、玉座の前には、七つのともし火が燃えていた。これは神の七つの霊である。また、玉座の前は、水晶に似たガラスの海のようにであった。この玉座の中央とその周りに四つの生き物がいたが、前にも後ろにも一面に目があった。第一の生き物は獅子のようであり、第二の生き物は若い雄牛のようで、第三の生き物は人間のような顔を持ち、第四の生き物は空を飛ぶ鷲のようであった。この四つの生き物には、それぞれ六つの翼があり、その周りにも内側にも、一面に目があった。彼らは、昼も夜も絶え間なく言い続けた。

ヨハネの黙示録4章

「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、全能者である神、主、かつておられ、今おられ、やがて来られる方。」玉座に座っておられ、世々限りなく生きておられる方に、これらの生き物が、栄光と誉れをたたえて感謝をささげると、二十四人の長老は、玉座に着いておられる方の前にひれ伏して、世々限りなく生きておられる方を礼拝し、自分たちの冠を玉座の前に投げ出して言った。「主よ、わたしたちの神よ、あなたこそ、栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方。あなたは万物を造られ、御心によって万物は存在し、また創造されたからです。」

終末の黙示の前に

- 栄光のキリストの姿の顕現(1章)
 - ・ 教会の主であり、終末の主である方
- 七つの教会へのメッセージ(2~3章)
 - ・ 教会(クリスチャン)を襲うであろう様々な敵や困難に対する警告
- 天におられる父なる神に対する礼拝(4章)
 - ・ 万物の起源であり統括者である方をたたえる
- 終末の出来事をもたらす「巻物」が小羊(イエス・キリスト)に渡される(5章)

玉座に座したもう父なる神

- ◎ 「碧玉や赤めのうのよう」に輝くお方
・ たとえようもなく美しい
- ◎ 「周りにはエメラルドのような虹」
・ まるで“後光が差している”よう
- ◎ 父なる神は美しく、自ら輝いておられる
- ◎ この地上の美しいものや景色などは神の美しさの現れである
・ 美しいと感じた時、その背後に神がおられることを覚えなければならない!



24人の長老と7つのともしび

- 玉座の周りに24の長老が座している
 - ・ 「白い衣を着て、頭に金の冠をかぶった二十四人の長老が座っていた」
 - ・ 彼らは主に仕える者たちの代表である
- 主の活動を暗示する光景・騒音
 - ・ 「稲妻、さまざまな音、雷が起こった」
- 主の霊が隣在し、活動している
 - ・ 「七つのともし火が燃えていた。これは神の七つの霊である」

四つの生き物

◎ 不思議な姿

- ・ 「前にも後ろにも一面に目があった」「六つの翼があり、その周りにも内側にも、一面に目があった」
- ・ 目:全知 翼:偏在性

◎ 四つの生き物の意味＞神の属性を象徴

- ・ 獅子:百獣の王＞威厳と全能性
- ・ 雄牛:聖なる生贄＞聖さと忍耐
- ・ 人間:最も賢い被造物＞知性と理性
- ・ 鷲:最強の鳥＞主権と卓越性



四つの生き物による賛美

彼らは、昼も夜も絶え間なく言い続けた。「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、全能者である神、主、かつておられ、今おられ、やがて来られる方。」玉座に座っておられ、世々限りなく生きておられる方に、これらの生き物が、栄光と誉れをたたえて感謝をささげると

- ◎ 四つの生き物は全被造物に代わって主なる神を賛美し続けてくれている!
- ◎ 私たちも本来、主なる神を賛美し続けねばならない
 - ・ その聖さ、全能性、永遠性を

長老たちによる礼拝

二十四人の長老は、玉座に着いておられる方の前にひれ伏して、世々限りなく生きておられる方を礼拝し、自分たちの冠を玉座の前に投げ出して言った。「主よ、わたしたちの神よ、あなたこそ、栄光と誉れと力とを受けるとにふさわしい方。あなたは万物を造られ、御心によって万物は存在し、また創造されたからです。」

◎ 礼拝の姿勢

- ・ ひれ伏す・見上げる・服従する

◎ 礼拝の言葉

- ・ わたしたちの神であることを告白する
- ・ 主なる神の素晴らしさをほめたたえる
- ・ 創造主であることを認める